

## 中国電力 三滝ダム

施設名	三滝ダム
概要	バットレスダム 堤高：23.8m 堤頂長：82.5m 堤体積：9000 m <sup>3</sup>
位置	八頭郡智頭町大字芦津
竣工	昭和12(1937)年
訪問日	2020年10月23日
訪問者	江原恭二、太田活巳



### 【施設に関する蘊蓄】

三滝ダムは昭和12年(1937年)竣工の発電用ダムである。本ダムは、バットレスダムと呼ばれ、水圧を受ける鉄筋コンクリート版(遮水壁)を扶壁(バットレス)によって支える構造である。日本のバットレスダムは、1923年に函館市水道局が建設した笹流ダムを皮切りに、最後のダムとなる三滝ダムの完成まで14年間で8基しか建設されず、現存するのは6基のみという希少な形式である。その希少性から三滝ダムは平成14年度の土木学会選奨土木遺産に認定されている。<sup>※1</sup>

詳細については、佐々木 勝氏著『日本最後のバットレスダム「三滝ダム」』を参照されたい。<sup>※2</sup> また、バットレスダムの変遷については文献3が参考になる。<sup>※3</sup>

### 【訪問記】

紅葉時期には少し早いですが三滝ダムに向かうことにした。幸い、学校の後輩が智頭町観光協会に勤めて、現地案内を依頼し、快諾を受けていた。クマの出没が懸念され、紅葉と遭遇リスクを勘案した結果、早めることとした。(心配は無いとのことであったが)

智頭インターチェンジで高速道路に別れを告げ、国道53号、国道373号、県道6号で芦津溪に向かう。県道に入りしばらく進むと道路勾配が増してくる。国道との分岐点の標高が約250mであり、目指す三滝ダムの標高は約750mと標高差500mを登ることになる。高度を増すごとに景色が変わって行く。『みたき園』駐車場で案内人と合流し、軽自動車1台で三滝ダムへ向かった。

途中の車窓からは杉林が見える。下草が刈られ、枝打ちされた杉が空に向かって真っすぐ伸びる光景は、林業の町『智頭町』と感心させられた。各種調査で山の中を歩いた経験では見たことのない光景であった。

当初は、遊歩道入口に駐車し、遊歩道を徒歩で三滝ダムを目指す計画であったが、時間の関係でダムサイトまで車で向かった。道幅が狭いので、軽自動車は好都合であった。

ダムは前日の降水により、放流を行っていた。掲載の写真は両水路から水が流れる貴重なショットとなった。右岸側から河川へ下ったが、結構な急斜面で苦労した。全景を捉えるためには、水量が多く、断念した。手前の紅葉が紅葉すると良い写真になったと少し残念であった。

このような標高が高い場所での建設工事。資材運搬は想像を絶するものがあるが、木材切り出しのための軌道（トロッコ）を活用したとの話であった。自動車、重機の世代も我々では浮かばない戦略で工事を進めた先人に敬意を表する気持ちで一杯であった。

### 芦津溪谷散策エリア

- 中国自然歩道ルート** 所要時間: 約45分(片道)
- 三滝ダム周辺ルート** 所要時間: 約35分
- 芦津源流ルート** 所要時間: 約50分(片道)

**中国自然歩道ルート** (所要時間: 約45分(片道))  
 寶園駅=車で約25分=遊歩道入口=徒歩約20分=三滝=徒歩約20分=三滝ダム=徒歩約5分=公共トイレ

**三滝ダム周辺ルート** (所要時間: 約35分)  
 公共トイレ=徒歩約15分=つり橋=徒歩約15分=三滝ダム=徒歩約5分=公共トイレ

**芦津源流ルート** (所要時間: 約50分(片道))  
 公共トイレ=徒歩約50分=ニツの滝

※芦津バス停=徒歩約1時間15分=遊歩道入口

**芦津溪谷散策エリア周辺マップ**  
 鳥取砂丘を育んだ源流、厳しい自然が織りなす景観は、国定公園にも指定されており、四季を通じて、その雄大な溪谷美を気軽に楽しめる。特に紅葉は格別。

**ポイント**  
 全ルートを通じて中国自然歩道として整備され、散策がてらのハイキングはおすすめ。また近くにはキャンプ場もあり、山菜狩り、溪流釣りなど、アウトドアが存分に楽しめる。中国自然歩道ルートは切り立った自然のコントラストが最高の溪谷に沿った遊歩道を歩く。間近で見る三滝は眺めが素晴らしい。三滝ダム周辺ルートでは新緑や紅葉が湖面に映り、大変美しい。芦津源流ルートでは、花崗岩の崖や巨岩や急流、淵があり、源流に触れることもできる。西日本屈指といわれる見事な溪谷美を楽しめる。

観光案内図

【余 談】

三滝ダム手前に山菜料理 『みたき園』がある。森の中に古民家を移築し、東屋や座敷を結ぶ散策路が設けられている。山菜料理を古民家で楽しめる趣向となっている。当日、平日にも関わらず、昼時は満車の繁盛状態であった。昼食コースは2,800円、4,000円、6,000円（税抜）と3コース用意されている。4月から12月初旬までの営業である。ホームページから予約が可能である。http://ashidumitakien.jp



三滝ダム 右岸からバットレスを見る



三滝ダム 堤頂通路



三滝ダム 湖面 紅葉は少し早い



三滝ダム 湖面側



案内看板



ゲート上の構造

参考文献

- ※1 日本の土木遺産 三滝ダム 一般社団法人建設コンサルタンツ協会 HP
- ※2 『日本最後のバットレスダム「三滝ダム」』佐々木 勝、P.P.32-35、建設コンサルタント協会誌 **Civil Engineering Consultant** VOL.242 January 2009
- ※3 『近代日本におけるバットレスダムの変遷』樋口輝久、馬場俊介 土木学会論文集No. 758/IV-63,117-136,2004.4